

米国

ISM景況指数（2020年8月）

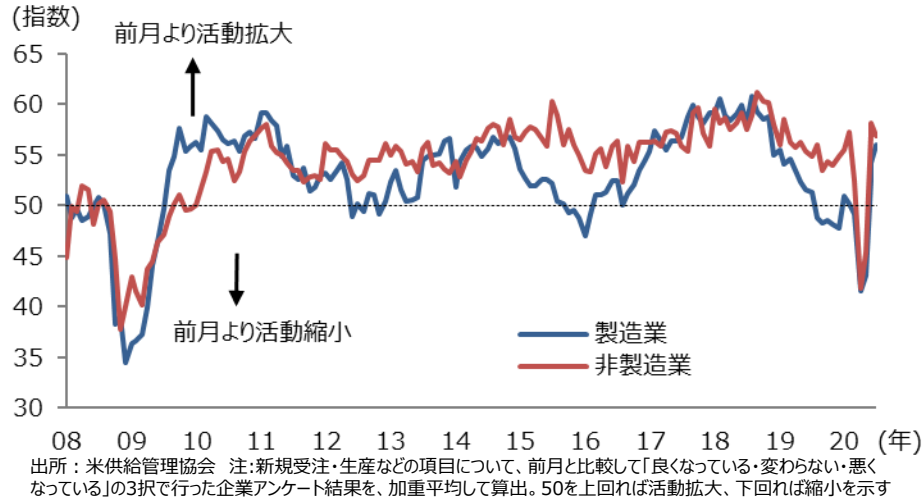
回復傾向は維持も、以前の活動水準に戻るには時間を要する

政策・経済研究センター

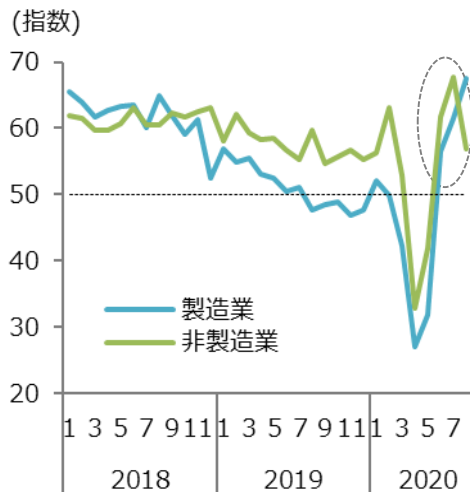
田中高大

03-6858-2717

1 総合指数

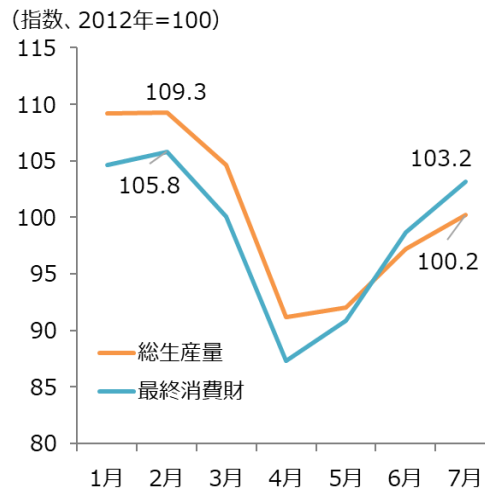


2 新規受注



出所：米供給管理協会

3 鉱工業生産指数



出所：Federal Reserve Board

評価ポイント

今回の結果

- 8月のISM製造業景況指数（9/1公表）は56.0と、前月（54.2）からさらに上昇し、3カ月連続で景気拡大を示す50を上回った。
- 製造業の指数を構成する5項目のうち、在庫（44.4）が低下した。一方で、新規受注（67.6）や生産（63.3）、入荷遅延（58.2）は上昇した。雇用（46.4）も上昇したものの、依然50を下回っている。業種別では、印刷・関連サポート活動、石油・石炭、家具関連を除く、15業種が活動拡大を報告している。
- 8月のISM非製造業景況指数（9/3公表）は56.9と、前月（58.1）から低下し、市場予想を下回ったものの、製造業と同じく3カ月連続で50を上回った。
- 非製造業の指数を構成する4項目のうち、ビジネス活動（62.4）と新規受注（56.8）が低下した。一方で、雇用（47.9）と入荷遅延（60.5）は上昇した。業種別では、鉱業、情報産業、その他サービスを除く15業種が活動拡大を報告している。

基調判断と今後の流れ

- 米国企業の景況感は、製造業と非製造業ともに回復傾向が続いている。
- 製造業は、先行きを示す新規受注指数が2年ぶりの高水準となるなど（図表2）、拡大傾向を維持している。しかし、7月の鉱工業生産指数は、新型コロナ前（2月）の水準を依然大きく下回っており、元の水準に戻るには時間を要するだろう。また、政府の経済政策により家計所得が一時的に増えたことから、最終消費財生産の回復が比較的進んでいたが（図表3）、雇用・所得環境の改善が緩やかなことをふまえると、今後も回復を維持できるかは不透明である。
- 非製造業では、新規受注指数が7月より10ポイント近く下落するなど（図表2）、回復ペースが鈍化している。新型コロナの感染再拡大により外出規制・自粛が広がるなど、先行きの不確実性が高まっている可能性がある。
- 先行きのリスクとしては、①新型コロナ感染拡大長期化、②追加経済対策の行き詰まりがあげられる。特に後者については財政余力の減少や、大統領選が近づくにつれ議会での与野党合意が更に困難になることから、有効な政策を打ちづらくなる恐れがある。